

令和8年度伊勢市休日・夜間応急診療所 運営委員会 議事要録

日 時	令和8年10月2日（金）19:30～20:20
場 所	伊勢市健康福祉ステーション5階中央保健センター健康増進室
出席委員	山川委員、鈴木委員、右京委員、村瀬委員、山中委員、冨田委員、小林委員、長島委員、中西委員、楠田委員、池田委員
事務局	健康福祉部長、同次長、健康課長、健康課地域医療係長、健康課指導官、健康課地域医療係
傍 聴 者	3名
資 料	資料1 令和7年度伊勢市休日・夜間応急診療所運営状況 資料2 伊勢市休日・夜間応急診療所受付時間の設定について（経過報告） 参考資料1－1 インフルエンザ流行状況 参考資料1－2 2026年第36週定点把握資料 参考資料1－3 全国と三重県のインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の定点あたり報告数

議 題

- (1) 休日・夜間応急診療所の運営状況について
- (2) その他

- ・事務局より資料の確認、会議公開の説明、委員会成立の報告、新委員の紹介、副会長の指名承認

【事務局より】

議題1について説明（資料1、参考資料1－1～3）

（「●」は委員意見、「→」は事務局回答を表す）

- 年末年始ピーク時の問題点や患者からのクレームなど何かあるか。

→年末年始は混雑はしていたが一昨年に比べて混雑度合いが低く特に大きな問題はなかった。

- 診療所の患者は冬場の待ち時間はどこで過ごすのか。発熱、感染症等のリスクの考慮はしているのか。

→年末年始の受付は外で行ったが、感染リスクを考慮して、待合室や、福祉センターの廊下を待合室として活用した。

●コロナの時は外で車の中で待っていただいた。しかし付近の道路渋滞が発生したり、自転車、徒歩で来所し長時間外で待ちかえって悪くなったのではないかとこの事例もあった。これらの改善策としてドライブスルー方式を実施した。令和5年に2類から5類になったため、社会福祉協議会の理解・協力を得て、ゾーニングするため館内廊下へ待合スペースを広げ、発熱患者を屋内に入ってもらった。また、感染リスクにも配慮するため、発熱以外の患者は救急出入り口から入っていただくなど適宜・適切に対応した。昨年度はそういったトライアルを行い、順調であったということをご報告させていただく。

●コロナ後の令和5年以降受診者数が減っている理由は何か。

→年末年始のインフルエンザの蔓延期に受診者数が非常に多かったということはあるが、令和5年以降の受診者の減少理由についてはわからない。

●令和6年の年末にインフルエンザが流行り、診療終了は夜の1時40分であった。令和7年度は年末のインフルエンザの患者さんが昨年に比べ減少したと思う。

●10%程度の変動の範囲内と見るのが適切ではないか。3年か4年に1回必ずインフルエンザ、コロナが大流行する。令和7年は少々の発熱では掛らないという患者さんが増えた。私見ではあるが市民の医療に対する動向が大きく変動したということではないか。

●市町分担金は伊勢市の負担が大きいと思うが固定金額か。

→分担金は、前年度の施設管理経費の一部項目の合算額を、1月1日人口で案分するという計算としているため毎年度変動している。明和町は松阪医療圏であるため、7対3とし人口の3割部分を負担していただいている。

【事務局より】

議題2について説明（資料2）

●受付時間の設定により、帰る時間がほぼ終了時間ということになりかなり負担が減っている。

●感染症が多くなった場合は臨機応変にやっていただきたい。平時は負担を減らしながら、いざというときにみんなでその全力でバックアップしながらやる。ドクター、薬剤師それから看護スタッフ、役所の方々へ、この場をお借りしてお礼申し上げる。

- 3師会の先生方の休日夜間応急診療所運営へのお力添えに感謝する。診療所が1次・2次の振り分けをしてもらうことで、病院は本当に入院を必要とする患者や、一刻を争うような患者を見せていただける。診療所の患者数から見てもこれに非常に役立っている。また決算からみて市の負担は大きいですが、2次救急、3次救急も結果的に非常に助かっている。他市町に比べ伊勢市の休日・夜間診療所のこの機能は高い方ではないかと感じている。引き続きよろしくお願いしたい。
- 休日・夜間応急診療所の執務者としては、患者の状態から救急連絡したとき、両病院の担当ナース、ドクターも「はい、どうぞ来てください」と、何も言わずに受け入れていただける。信頼関係があって、バックアップ体制がしっかりしていることで我々も執務できる。これまでに築き上げてきた関係をこれからも維持したいと思う。よろしくお願いしたい。